



大分県議会議員 2024年 春号
県民クラブ会報「県民ひろば」別府市版

原田たかし 会報

教育・福祉・労働

子どもたちが「生まれてきてよかった」、
高齢者の方々が「長生きしてよかった」と
思える社会を実現するために。

大分県議会議員 原田 孝司

発行責任者：大分県議会・県民クラブ 原田孝司

連絡先：別府市荘園町3組の2 原田たかし事務所 TEL・FAX 0977(25)0011 E-Mail harada@ctb.ne.jp

佐藤知事「人口減少対策、産業の振興、未来へつなげる投資」

～2024年 大分県議会第1回定例会～

2024年第1回定例会が2月26日(月)から3月27日(水)にかけて開催されました。

佐藤樹一郎知事が就任後初めて組んだ当初予算案は総額6,898億800万円。新型コロナウイルス対策事業が大幅に減ったことで11年ぶりに前年度を下回りました。

県税収入は1,375億円と過去最高を見込んでおり、佐藤知事は会見で「誰もが安心して元気で活躍できる県づくり、未来に向けて発展するための予算をバランスよく編成

できた。財政運営の健全性は維持する。」と述べています。

会期中には当初予算案を集中審議する予算特別委員会も行われ、閉会日に全て可決されました。

【特徴的な新規事業を2・3面に掲載】



知事による予算説明会の様子

当初予算からみた佐藤COLOR

昨年4月の統一地方選挙以降、多くの方々から「佐藤樹一郎知事はどう？」と尋ねられます。20年ぶりの交代となった新知事の県政運営が気になるのだと思います。

私はその度に「人柄はとても良い方ですが、県知事としての方向性はまだよくわかりません。3月の2024年第1回定例会での当初予算、そして9月の第3回定例会で示される新たな長期総合計画ではっきりしてくると思います。」と答えていました。

今回、佐藤知事が初めて取り組んだ当初予算を見ると、基本的には広瀬前知事の「安心・活力・発展」路線を踏襲していると思います。とはいえ、新たな取り組みとして交通政策局を新設しての広域公共交通網の整備検討、脱炭素化社会の推進、子ども・子育て支援、事業者の人材確保支援など「未来へつなげる投資」をこれまで以上に打ち出していると感じます。

私は広瀬前知事の取り組んできた構想について、この交代を機に大胆に検討をしていくべきだと思っています。

例えば、航空機を利用した小型衛星の水平型打ち上げをメインとする大分空港の宇

宙港構想。その基幹企業であったヴァージン・オービット社は経営破綻しました。県は新たな提携企業を探していくとの方針ですが、私は国際便（現在、韓国ソウル便のみ）のさらなる誘致など観光の起爆剤となる施策に転換するべきだと考えます。

また、現在、九州最下位の産出額となっている農業。県はこれまでも大分県の顔となる園芸品目の育成を図る生産拡大計画を進め、まだ県内にはない100億円規模の園芸の創出に取り組んでいます。しかし、実現のためには平松県政での「一村一品運動」のときのような大きなうねりが必要だと思います。

そして、人口減少問題。広瀬県政では、大分キャノンやダイハツ大分中津工場規模拡大など企業誘致での雇用創出が対策の柱でした。この問題は、大分県の最重要課題です。

様々な課題に対して、他県にはない独自の政策、それが佐藤カラーになるのではないかと考えています。そういう意味では佐藤カラーはまだまだこれからなのかもしれません。

折り鶴に込めた願い

原田孝司のシンボルマークは平和を象徴する折り鶴です。
背景には、教育・福祉・労働を表現する虹がかかっています。

